

「麒麟がくるぎふ可児 大河ドラマ館」と明智荘

職員 可児市の大河ドラマ館では、「麒麟がくる」の番組紹介パネルや映像、衣装、小道具や撮影セットのジオラマを展示しています。ドラマで使っていたお手玉のレプリカも展示されています。光秀の館で子どもたちと一緒にお手玉を楽しむシーンがありましたね。撮影から日がたっていますが、ドラマ館からお手玉を持ってきてみたのでやってみていただけませんか！

門脇 わかりました。(下写真)一同 すごーい!!



▲大河ドラマ館 正面パネル
◀ドラマ館内

職員 可児市ではドラマ館のスタッフが来館者の皆さんにお手玉を披露するというおもてなしをしています。そのために講師の先生にコツを教えていただいて、1カ月くらい毎日猛特訓をしたんですよ。(練習風景の映像をみせる)

門脇 こちらのの方は、もともとできる人ですよね!?

職員 いえいえ。特訓してようやくできるようなったそうですよ。

門脇 すごいですね。お手玉といえば、牧役の石川さゆりさんが子どもの頃にお手玉で遊んでいらしたみたいで、私が撮影でポトポト落しながらやっているのを見て「できないの?」とおっしゃって「エイエイ」とリズムをとりながら、お手玉を披露してくださいました。すごくお上手で、落とさずに何回も続けられるのでも驚きました。

職員 ドラマ館の正面には光秀と駒の特大写真があります。来館された皆さんの最初の写真スポットなんです。

門脇 すごーい!かっこいいですね。

職員 駒の衣装も展示されています。初めて衣装を見た時の印象はいかがでしたか。

門脇 駒はとにかく明るいキャラクターです。戦災孤児では

職員 中庭が印象的とのことですが、ドラマ館では「麒麟がくる」で庭園指導をされている北山安夫さんが、光秀の館の庭のセットをつくるにあたっての思いを語った映像をみることでできます。庭園のセットが本格的な造りになっていることを来館される皆さんに紹介しています。

門脇 本日に素晴らしい庭園セットなんです。私がいままで見た中で一番です。展示映像でより多くの皆さんに知っていただくことができますね。

職員 ドラマ館には「明智荘の人々にメッセージを送ろう」というコーナーもあるんです。駒ちゃんへのメッセージも届いていましたので、持ってきました。

門脇 ありがとうございます。小さいお子さんからのメッセージもありですね。すごくうれしいです。



門脇 穏やかそつだなのというのが率直な印象です。時間がのんびりゆったり流れていそうな感じ。山間部にありましたよね。ドラマのイメージに近いと思います。

職員 可児のドラマ館には、光秀の館の撮影セットのジオラマがあります。光秀の館で撮った印象的なシーンを教えてください。

門脇 中庭が印象的です。本当に美しいです。駒が月明りを見ながら十兵衛様にお別れを言って扇子をもらうシーンや、帰蝶様と二人で「十兵衛様のことが好きでしょ」と、暖かい日差しの中でおしゃべりしているシーンですね。お部屋から中庭が見える造りで、朝から夜の時間の流れで雰囲気が変わります。同じ場所で撮っていますが、その時々で情緒があり、演じる時の気持ちが入りやすいです。

職員 ドラマ館の外には季節の花々が楽しめる花フェスタ記念公園があります。とてもきれいなところですよ。ぜひ可児市に来ていただきたいです。(花フェスタの写真をみせる)



あるけれども、ひたむきに明るく希望を持って生きていくという役割です。衣装にはオレンジやピンクといった暖色、ハッピーカラーが使われてあって着ているだけですごく明るい気持ちになれます。駒が最初に登場したときの設定は15歳なので、いろいろと無理がありました(笑)、衣装にとっても助けられました。

職員 デジタル体験コーナーには光秀や牧、それに駒のフレームに自分の顔をはめ込んでモニターに表示できる「なれルンです」があります。登場人物になりきった自分の姿をカメラ

ラやスマホで撮影することができんです。「麒麟がくる」にはたくさん的人物が登場しますが、門脇さんは駒以外に演じてみたい役はありますか。

門脇 菊丸! (即答)

職員 菊丸!? どうですか。

門脇 面白い役ですよ。正体不明で、かっこいい。スパイみたいな感じで惹かれます。

—駒が光秀とともに明智荘に来て過ごす場面がありました。門脇さんが思う明智荘や明智荘の人々のイメージを教えてください。

門脇 すてきな場所ですね。機会があれば是非伺いたいです。こちらこそよろしく願います。

職員 最後に可児市民へのメッセージをお願いします。

門脇 「麒麟がくる」を盛り上げてくださっているとのこと、とてもうれしいです。これからも一生懸命がんばりますので、引き続き応援をよろしく願います。

取材後記

ドラマ館のメッセージコーナーに届いた、来館者の皆さんからのメッセージカードを手渡すと「嬉しいですよ!」と瞳を輝かせながら全て読んでくださるところや、インタビュアの質問にこちらを真っすぐに見て真摯に答えてくださるところから、門脇さんのお人柄を感じる。と同時に、その真っすぐな眼差しに、駒と通じるものがあると思えました。

